

令和元年度 金沢大学附属中学校 自己評価表

学 校 目 標 自由闊達な気風の中で、広い視野と豊かな人間性を持ち、将来、社会的使命を果たす生徒を育成する。 (1) 自ら考え学ぶ生徒 (2) お互いに認め合い、助け合う生徒 (3) 心身ともにたくましい生徒				
本校の経営方針 (1) 金沢大学の方針、規則に沿った学校運営を行う。 (2) 学校教育学類、大学院教育学研究科・教職実践研究科や他の附属学校園との連携を密にして、附属学校としての任務の遂行にあたる。 (3) 生徒や教職員の自発性を尊重しながら、教育目標や目指す生徒像の具現化を図る。 (4) 金沢大学附属中学校のよき伝統を受け継ぎ、より良い校風の樹立と継承をめざす。				
評価項目	目 標	具 体 的 取 組	評価	次年度への主な課題
教 務	1. 総合的な学習の時間の系統性を重視し、より円滑に実施する。 2. 年間行事のより効率的な運用をはかり、行事の精選を行う。 3. 新学習指導要領に対応した教育課程を円滑に実施する。	・E S Dの視点で再構築した総合的な学習の時間の内容を精選し、系統立てて実施する。	B	新学習指導要領に対応した教育課程、および指導要録の改訂をより円滑に実施する。
		・学校行事の年間計画をより効率よく運用する。	A	
		・新学習指導要領に対応した教育課程を円滑に実施する。	A	
生徒指導	たくましく生きるための社会性の基礎を養う。	・あらゆる場面で挨拶ができるよう指導する。	A	生徒自らが問題意識をもてるように生徒会委員会と連携する。 道徳等を活用しバスなどの公共マナー指導を強化する。
		・時間を守り、行動することができるよう指導する。	B	
		・心豊かで思いやりのある言動ができるように指導する。	A	
教育実習	1. 実習に係る諸活動を滞りなく行う。実習を通して学生に教育的愛情と教師の自覚・責任の意識、実践的な指導力を育成する。 2. 大学院教職実践研究科の中学校におけるさらなる連携体制を整え、院生の指導力の向上ができるようにする。	・教科の実習のみならず、学級経営や生徒指導など、生徒理解を深める様々な実習が行える計画、運営を行う。	A	教職大学院生の活動内容を職員間で共有できるようにし、他教科教員とも授業参観を行えるような計画を立てていく。
		・大学との連絡や確認を密にとり、実習に係る取り組みの理解、共有を図る。相互に授業検討を行うなど、連携を意識した学校実習の計画、運営を行う。	B	
研 究	伝統文化教育に関わって 1. 各教科等で学んだことを自分たちの現在や将来の行動につなげられる生徒を育てる。 2. 教科等横断的なカリキュラムのマネジメントに取り組む。 3. 伝統文化教育の推進と資質・能力の育成との関連について明らかにする。	・各教科等の授業において、生徒が自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習の在り方について探求する。	A	学校全体のカリキュラムマネジメントの精選と同時に、各教科等の学習の再構成を行う。
		・学校全体のグランドデザインに基づいて、伝統文化教育を柱として各教科等が連携して学習活動に取り組めるようカリキュラムマネジメントを行い、その成果をまとめ校内外に発信する。	B	
		・伝統文化教育を通して育成する資質・能力について、その育成の成果を生徒・保護者・地域等と共有し、次年度の研究へつなげる。	A	

情報教育	1. 情報社会に参画する態度の育成 2. 情報活用実践力の育成 3. 情報教育環境の整備	・情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会に参画しようとする態度を育成する。	B	ICT 環境の整備体制を確立する。 ICT 活用のための教員への研修を実施する。
		・技術・家庭科技術分野と各教科等が相互に関連を図り、情報を適切に収集、判断、整理、活用、発信するために必要な能力を指導する。	A	
		・ICT 環境を整備し、iPad の活用体制を確立する。	A	
保健安全	1. 自他の心身の健康に対し主体的に関わる生徒を育てる。 2. 自他の安全に配慮できる生徒を育てる。 3. よりよい環境を積極的に創る生徒を育てる。	・よりよい安全点検をめざし、生徒・教員が連携して取り組む。	A	よりよい学習環境の整備とより実践的な避難訓練の計画を実施していく。
		・生徒の自発的な清掃をめざして、指導の工夫・改善をする。	B	
		・学習環境の整備について、自発的に取り組める生徒の育成を目指し、指導する。	B	
第1学年	1. 学習に対する前向きな取り組み姿勢、基礎的学力を育成する。 2. 相手の気持ちや周囲の状況を考え、行動できる生徒を育成する。 3. 目標に向け、あきらめず、粘り強く取り組む姿勢の育成。	・生徒の関心、意欲を引き出す指導の工夫や、提出物の徹底を図る。	A	声かけや事後の指導に止まらず、生徒の自発的な取り組みを促す指導を、さらに工夫しながら継続していく。
		・日常生活や行事などの場面で、人の気持ちを考えさせる指導を行う。	A	
		・日々の生活や学校行事における目標を明確にし、働きかける指導を行う。(あいさつ、校歌・合唱、清掃など)	B	
第2学年	1. 日々の授業を大切にし、学び合う姿勢を育む。 2. 互いの役割を理解し、助け合う姿勢を育む。 3. 心身ともにたくましく、様々なことに挑戦し、個々が力を伸ばす姿勢を養う。	・授業を中心とした学習習慣が確立できるよう、個々に応じた支援を行う。また、しっかりとした授業規律をつくり、個々の考えをつなげて学び合える場を設定し、確かな学力につながるよう支援を行う。	A	よりよい集団を目指して、お互いを認め合い、高め合えるよう、さらなる声掛けを行う。また、学校全体に関わっていかこうとする姿勢や態度をさらに育み、最高学年としての自覚と責任を持てるよう、生徒の自主性を尊重しながら支援を行う。
		・学級、生徒会、行事などで、個々が力を発揮できる場と役割を設定する。また、互いの個性を認め、思いやりの心を持って、それぞれが力を合わせて学校生活を送ることができるよう支援する。	B	
		・それぞれの生徒が、基本的な学校生活を送り力を発揮できるよう、個々に応じた支援を行う。また、生徒会活動や行事、部活動などを通して、様々なことに挑戦する心を育み、自己の成長を実感できるよう、面談などで個々への声かけを行う。	A	
第3学年	1. お互いに認め合い、周りに思いやりの心を広げることができる。 2. 何事にも、自ら考え、積極的に取り組み、最上級生として責任を果たすことができる。 3. 進路目標の実現に向けて、お互いを高め合うことができる。	・授業や学年、学校行事を通して、思いやりの心が広げられるように、お互いのよさに目を向けさせ、一人一人が人間として成長できるように教師が支援する。	A	
		・何事にも、生徒が自ら考え、適切に判断し、与えられた仕事を最上級生として最後まで責任をもってやり遂げることができるように教師が支援する。	A	
		・学年、学級において、お互いに学び合う雰囲気を作るとともに、自分の進路目標に向かって粘り強く、最後まで努力できるように教師が支援する。	B	

評価基準

A : 達成されている

B : ほぼ達成されている

C : あまり達成されていない

D : 達成されていない